

日本光学会平成 18 年度第 1 回常任幹事会議事録

日 時： 2006 年 7 月 14 日(金) 13:30~18:00

場 所： 応用物理学会会議室

出席者： 伊東幹事長，他 20 名

議 事：

1. 第 178 回幹事会議事録に関する質問事項

前回議事録は承認された。

2. 報告事項

2-1. 編集委員会関連報告

(1) 「光学」編集報告

- ・ 発刊作業の進捗が報告された。
- ・ 「光学」特集号に関連した原著論文の募集，審査方法に関し説明があった。
- ・ 「光学」記事の Web 一般公開に伴う公開のガイドラインおよび費用が示された。

(2) 「OPTICAL REVIEW」編集報告

- ・ 掲載および投稿論文状況が報告された。
- ・ 投稿・掲載の迅速化を目的に，OR の電子投稿化を検討中との報告があった。
- ・ OR のカレント，アーカイブのサーバーとして，外部サーバーとの契約完了の報告があった。

2-2. 出版委員会関連報告

(1) 「OPTICAL REVIEW」出版報告

- ・ 平成 18 年 1 月 1 日～7 月 10 日の OR 収支決算書が示された。
- ・ OR Web サイトのアクセス統計が示された。
- ・ 2006 年 OR 広報，投稿勧誘用のチラシとポスターを作成したとの報告があった。

2-3. 講演会関連報告

(1) 第 31 回光学シンポジウム結果報告

- ・ 参加者数は昨年比約 50 人増の 351 名，新たな試みであるコーヒーサービスや懇親会も好評で，非常に盛況であったことが報告された。
- ・ 決算報告は次回幹事会でを行うとの報告があった。

(2) 第 40 回サマーセミナー進捗報告

- ・ 講師からの原稿入手および印刷手配を行っており，順調な進捗であるとの報告があった。
- ・ 参加者募集の呼びかけがあった。

(3) 第 2 回光応用新産業創出フォーラム進捗報告

- ・ プログラムが確定し，順調な進捗であるとの報告があった。

・ 事前申込者募集の呼びかけがあった。

・ 光産業創出フォーラム運営委員への委嘱状の送付が承認された。

(4) Optics & Photonics Japan 2006 進捗報告

- ・ 講演申込も開始し，順調な進捗であるとの報告があった。
- ・ 日本分光学会との共催に関し，① 参加費用，予稿集，懇親会費等はすべて同一条件とする，② 著作権は日本光学会へ帰属することで合意したとの報告があった。
- ・ 予稿 PDF ファイルを取めた CD-ROM を参加者および予稿集購入者へ無料配布する件は，OPJ2006 推進委員会にて現在審議中との報告があった。
- ・ 協賛学協会依頼状況および会告掲載依頼状況が示された。

(5) 第 33 回冬期講習会進捗報告

・ 開催日，開催場所が決定し，順調な進捗であるとの報告があった。

2-4. その他報告事項

(1) 協賛依頼について

・ 8 件の協賛依頼に関して承認された。

(2) 会員動静

・ 大きな会員数の変動はないことが報告された。

(3) 収支計算書

・ 平成 18 年 1 月 1 日～6 月 30 日の収支決算書が示された。

(4) 奨励賞審査結果報告

・ 平成 18 年日本光学会奨励賞受賞候補者が発表された。

(5) 光学論文賞選考委員報告

・ 光学論文賞選考委員が選考委員長より提案され，承認された。

(6) 会員制度委員会報告

・ 応用物理学会理事会にて応用物理学会フェロー制度の創設が決定したことに伴い，日本光学会フェロー選出委員を選出し，ガイドライン等を審議するとの報告があった。

・ フェローに加え，功労会員，特別会員の創設に関しても審議するよう要請があった。

・ 評議委員会制度について，審議するよう要請があった。

(7) 500 人会員増委員会報告

・ 増員の施策および実行委員が示された。

・ 学生会員の少なさが指摘され，学生にとって特に魅力的

な入会特典について議論し、委員会で継続審議するよう要請があった。

- ・入会時における推薦者の撤廃に関して、次回幹事会で再審議するよう要請があった。

(8) 事務局改善報告

- ・事務局開局日を、従来の月・水・木から月・火・水・木の週4日に6月より拡大したことが報告された。
- ・事務局ガイドラインに関し、骨子が示された。

(9) 賞関係内規改訂について

- ・応用物理学会理事会にて以下の内規改訂が承認されたとの報告があった。① Optics Japan (略称 OJ) を Optics & Photonics Japan (略称 OPJ) に変更する。② 光学論文賞および日本光学会奨励賞の審査委員を、選考終了までは非公開にする。

(10) その他

- ・応用物理学会理事会出席報告がなされた。

3. 審議事項

(1) 電気関係学会北陸支部連合大会への参加に関して

- ・電気関係学会北陸支部連合大会への参加に関し、日本光学会北陸支部での審議結果に一任することが承認された。
- ・大会参加費は、日本光学会で負担することが承認された。
- ・大会参加に際しては、参加費用を含め先方と入会内容を十分確認するよう要請があった。

(2) 将来問題担当兼人材育成・男女共同参画担当幹事について

- ・将来問題担当幹事が人材育成・男女共同参画担当幹事を兼任することが提案され、承認された。

(3) 学会名等の英語表記について

- ・日本光学会では、
日本光学会：The Optical Society of Japan (略号：OSJ)
日本光学会幹事長：President of the Optical Society of Japan
日本光学会副幹事長：Vice-president of the Optical Society of Japan
を正式に使用していくことが承認された。

(4) 日本光学会のロゴマークについて

- ・日本光学会のロゴマーク変更に関して、ロゴマーク担当が決定し、他学会等のロゴを参考としプロデザイナーの選定を行うよう要請があった。

(5) シンポジウム予稿集等の転載について

- ・著者本人が自ら作成した論文を転載する場合に限り、シ

ンポジウム予稿集等の転載を許可することが承認された。

(6) HP 改善について

- ・日本光学会 50 周年で作成した記念 CD-ROM の内容を、HP 上に掲載する件に関して、内容が古い可能性があるため、掲載前に十分確認を行うよう要請があった。
- ・HP 管理方法として、市販の HP 作成ソフトを用い HP 担当幹事が直接的に掲載・変更作業を行う方法が提案され、承認された。
- ・HP 改善プロジェクトの発足が承認された。

(7) その他

- ・ホログラフィックディスプレイ研究会が行う「ホログラム記録材料の評価方法の標準化」について、経緯および進捗が報告された。

第 179 回幹事会

2006 年 9 月 19 日 (火) に応用物理学会会議室において開催されました。「光学」編集報告、「OR」編集報告および出版報告、光学シンポジウム収支報告、サマーセミナー結果報告、光応用新産業創出フォーラム結果報告、Optics & Photonics Japan 2006 進捗報告、北陸信越講演会進捗報告、電気関係学会北陸支部連合大会への参加申請、冬期講習会進捗報告、光学五学会関西支部連合講演会進捗報告、関西講演会進捗報告、北海道講演会進捗報告がなされました。また、承認済みの協賛依頼、会員動静、収支決算書、奨励賞および光学論文賞、会員制度委員会、500 人会員増委委員会、事務局改善報告、JJAP 広報協力についての報告がありました。さらに、光学シンポジウム企画案、予算案、韓国光学会との協力関係、次期幹事案、入会登録、光学会 HP 改善、ロゴ商標登録について審議がなされました。なお、詳しい幹事会議事録は第 36 巻第 1 号に掲載予定です。

第 229 回「光学」編集委員会

2006 年 9 月 15 日 (金) に応用物理学会会議室において開催されました。第 36 巻第 6, 7 号の企画決定、第 36 巻第 8, 9 号の第二次構想案、第 36 巻第 10, 11 号の第一次構想案の審議、第 36 巻第 11, 12 号の号担当の決定が行われました。その後、報告および審議事項を経て、論文投稿・審査状況についての報告、会計の報告がなされました。

日本光学会光設計研究グループ第 9 回光設計賞

日本光学会光設計研究グループ主催の“第 9 回光設計賞”を実施し、以下の通り、光設計に関する優れた研究、

技術，発明に賞を授与することになりました。11月8日～10日に学術総合センター（一橋記念講堂）にて開催された Optics & Photonics Japan 2006 にて，授賞式ならびに受賞記念講演を行いました。

○光設計大賞：

- ・「スライディングレンズシステムによる超薄型デジタルカメラ用ズームレンズ」

江口 勝氏，野村 博氏（ペンタックス）

○光設計優秀賞：

- ・「反射型パネル対応プロジェクター光学系」

佐藤 浩氏，奥山 敦氏，児玉浩幸氏，須藤貴士氏（キヤノン）

○光設計奨励賞：

- ・「反射防止構造のためのレンズ金型微細加工とその成形技術」

大森滋人氏，西田直樹氏，山本裕子氏，上田裕昭氏（コニカミノルタテクノロジーセンター），中塚雄三氏（コニカミノルタオプト）

○光設計特別賞

- ・「すばる望遠鏡レーザーガイド補償光学系の設計・製作」

家 正則氏，高見英樹氏，早野 裕氏，渡邊 誠氏，大屋 真氏，服部雅之氏，斉藤嘉彦氏（国立天文台），和田智之氏，斉藤徳人氏（理化学研究所），赤川和幸氏（メガオプト）

第 33 回冬期講習会「光診断と光治療の最前線」

日 時：2007年1月11日(木)，12日(金)

場 所：東京大学本郷キャンパス山上会館大会議室
(〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1)

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01-00-02_j.html

主 催：日本光学会

協 賛：計測自動制御学会，精密工学会，電子情報通信学会，日本オプトメカトロニクス協会，日本物理学会，電気学会，レーザー学会，光産業技術振興協会，日本分光学会，日本生体医工学会，日本レーザー医学会

問合せ先：大阪大学大学院医学系研究科 近江雅人
電話 06-6879-2576 Fax 06-6879-2469

E-mail: ohmi@sahs.med.osaka-u.ac.jp

詳細は本号巻頭の綴じ込みをご覧ください。

カラーフォーラム JAPAN2006

期 日：2006年11月27日(月)～29日(水)

場 所：工学院大学（東京都新宿区）

主 催：光学四学会幹事会（日本光学会，照明学会，日本色彩学会，日本写真学会）

問合せ先：カラーフォーラム JAPAN2006 事務局

電話 03-3950-1641 Fax 03-3565-7717

E-mail: ren-net@vega.ocn.ne.jp

<http://www.ren-associates.com/ColorForumJ/>

第 40 回光学五学会関西支部連合講演会

テーマ：心と光～光で心を探る・操る～

日 時：2007年1月27日(土) 10:35～17:05

場 所：大阪市立大学文化交流センターホール（〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階）

主 催：日本光学会・照明学会関西支部・日本色彩学会関西支部・日本分光学会関西支部・日本写真学会西部支部

協 賛：日本赤外線学会・電気学会関西支部・電子情報通信学会関西支部・映像情報メディア学会関西支部・日本材料学会関西支部・日本人間工学会関西支部・日本化学会近畿支部・日本画像学会関西支部・応用物理学会関西支部・レーザー学会（順不同，依頼中を含む）

プログラム：

10:40 「光脳機能イメージング」河野 理（島津製作所）

11:40 「生理リズムから見た照明のあり方」阪口敏彦（松下電工）

13:40 「光の錯視」北岡明佳（立命館大）

14:50 「自然な見えが得られる映像の追求～人の視機能から見た立体映像の発展～」名手久貴（東京工芸大）

16:00 「ガラスと光」奥野美果（ガラス造形作家）

参加費：主催・協賛学会員3,000円，会員外3,500円，学生1,000円。講演会当日にお受けします。講演会の後，懇親会（無料）を行います。

申込方法：氏名，勤務先（学校），住所，電話，Fax，E-mail アドレス，所属学会を書き，以下の申込先へ E-mail または Fax でお申し込みください。

申込先：大阪府立大学工学研究科電子物理工学分野 和田健司宛（宛先を「光学五学会」と明記してください）

Fax 072-254-9908

E-mail: kougaku6@pe.osakafu-u.ac.jp
申込締切: 2007年1月17日(水) (定員90名)
問合せ先: 和光純薬工業(株)バイオメディカルシステム
部 田中正一
〒661-0963 兵庫県尼崎市高田町6-1
電話 06-6499-9187 Fax 06-6494-2860
E-mail: tanaka.shoichi@wako-chem.co.jp

講演会「視覚情報と認知」

日時: 2006年11月30日(木) 13:30~16:30
場所: 富山大学工学部電気電子システム工学科第2演習室(2階)
主催: 日本光学会北陸信越支部
講演プログラム:

- 13:30 開会の挨拶
- 13:40 「視覚バリアフリー用LED情報板の研究・開発」中嶋芳雄・高松 衛(富山大)
- 14:20 「明るさ錯視はなぜ生じるのか」塚田 章(富山商船高専)
- 15:00 休憩
- 15:10 「運動知覚の生起における色情報の役割とそのメカニズム—心理物理学実験および脳機能イメージングによるアプローチ—」吉澤達也(金沢工大)
- 15:50 閉会の挨拶・休憩
- 16:00 見学会(中嶋・高松研究室)

参加費: 無料
参加申込: 不要(E-mail・Fax等でご一報いただくと幸いです)
問合せ先: 富山大学理工学研究部(工学部)田代発造
〒930-8555 富山市五福3190
電話/Fax 076-445-6808(直通)
E-mail: tashiro@eng.u-toyama.ac.jp

第102回微小光学研究会

テーマ: レーザーイメージングと微小光学
日時: 2006年12月1日(金) 10:30~17:10
場所: 大阪大学(吹田キャンパス)銀杏会館(〒565-0871吹田市山田丘1-1) <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/map/index.html>
交通: 伊丹空港からモノレールで約25分(阪大病院前)徒歩10分, または千里中央からバスで約15分(阪大本部前)徒歩3分/モノレールで約10分(阪大病院前)徒歩10分
主催: 日本光学会微小光学研究グループ

協賛: (社)レーザー学会

プログラム:

- 10:30 開会の挨拶
- 10:40 特別講演「ダイナミック光コヒーレンストモグラフィとヒト表皮下生理機能解明への応用」春名正光ほか(阪大)
- 11:20 「ホログラフィによる超短パルスレーザー光の伝播の観察」栗辻安浩ほか(京都工繊大, 科学技術振興機構さきがけ)
- 11:50 「テラヘルツ波を用いたイメージングと非破壊計測応用」谷 正彦(阪大)
- 12:20 昼食休憩
- 13:30 特別講演「新しい非線形光学顕微鏡—誘導パラメトリック発光顕微鏡—」伊東一良(阪大)
- 14:10 「高機能超短パルスファイバレーザ光源開発と3次元計測への応用」西澤典彦(名大)
- 14:40 「リモートセンシング用全固体2ミクロンレーザーの開発」浦田佳治・和田智之(メガオプト, 理研)
- 15:10 休憩
- 15:30 「新しい原理にもとづく広角・低電圧KTNビームスキャナ」中村孝一郎ほか(NTT)
- 16:00 「ディスプレイ用純青色高出力GaN半導体レーザー」長濱慎一(日亜化学)
- 16:30 「SHG光源を用いたレーザープロジェクションTV」山本和久(松下電器)
- 17:00 閉会の挨拶

参加費: 一般4,000円, 学生1,000円(資料代含む, 当日ご持参ください)

参加申込: 不要(直接会場にお越しください)

問合せ先: (株)フジクラ光電子技術研究所 藤巻宗久

電話 043-484-3949 Fax 043-481-1210

E-mail: fujimakim@lab.fujikura.co.jp

プログラムは, 微小光学研究グループのホームページ <http://www.comemoc.com/>でもご覧になれます。

日本光学会光波シンセシス研究グループ講演会

日時: 2006年12月1日(金) 13:00~
場所: 中央大学理工学部(東京都文京区)
主催: 日本光学会光波シンセシス研究グループ
講演内容: アゾベンゼンの科学

- 1) 「アゾベンゼンの光異性化反応のメカニズム; 光異性化反応のうそと真実」藤野竜也(首都大学東京)・田原太平(理研)

- 2) 「光表面レリーフ形成のメカニズム」 茨田大輔 (筑波大) ほか
- 3) 「アゾベンゼンによる光異性化を利用した光学デバイス」 渡辺 修 (豊田中研)
- 4) 「アゾベンゼンを導入した高分子ゲル中でのスリッリンク制御」 渡辺敏行 (東京農工大)
- 5) 「アゾベンゼンを含む両親媒性ブロック共重合体の構造制御」 彌田智一 (東工大)
- 6) パネルディスカッション

問合せ先： 千葉大学工学部情報画像工学科 尾松孝茂
電話 043-290-3477

E-mail: omatsu@faculty.chiba-u.jp

<http://physics.tp.chiba-u.jp/~omatsu/lws/>

講演会 「21 世紀のバイオメディカルフォトリクスー光デバイスのポテンシャル」

ヒトゲノムプロジェクトの終了により、21 世紀の生物学・医学分野は根本的な変革を迫られています。そこではすべての生命活動を分子を基盤として理解し、その応用である医療においても従来の予防、診断、そして治療をすべて分子レベルで遂行する「分子医療」が生まれようとしています。ここに“光”のもつ利点、すなわち単一分子検出も可能な超高感度と、細胞や生体に対しての無侵襲性、そして分光学としての高選択性があげられます。こうして光技術と医学・生物学が結びついた新しい領域が形成され、この中で特に「光診断」は基礎研究から一般臨床への飛躍の時を向かえようとしています。この飛躍を支えるには、利用する立場としての医学・生物学分野と計測原理、計測技術を担当する光科学・光工学分野の相互乗り入れがカギとなります。本シンポジウムでは、特に工学・技術サイドから最新の光デバイス等をオープンしていただく一方、医学・生物側からは、どのようなスペックをもつ光の技術が待たれているかを話し合う機会にしたいと思います。特に、新しい光産業の育成の視点から、光技術の医療応用の最前線を、ハードを中心として討論する予定です。

期 日： 2006 年 12 月 1 日(金)、2 日(土)

場 所： 発明会館 (東京都港区虎ノ門 2-9-14, <http://hatsumeikaikan.com/page003.html>)

主 催： (財)光産業技術振興協会

共催(予定)： (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

協 賛： 日本光学会 (応用物理学会)

プログラムの詳細は <http://www.oitda.or.jp/main/data/061201.pdf> をご参照ください。

講演内容： 「光マンモグラフィを中心としたイメージングとスペクトロスコピーの現状と未来」 Bruce J. Tromberg, Ph.D. (Editor-in-Chief of Journal of Biomedical Optics; Univ. of California, Irvine), ほか
参加費： 無料, ただし懇親会 (1 日 18:00~) は 2,000 円
申込・問合せ先： 〒 112-0014 東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル 7 階
(財)光産業技術振興協会開発部 田口剣申
電話 03-5225-6431 Fax 03-5225-6435
E-mail: taguchi@oitda.or.jp

「もつれ光子・生成と光学への応用」セミナー

本セミナーは「量子もつれ光子」をその基礎から応用の最先端まで一気に学べる希少な機会として企画され、光産業技術者の疑問のすべてに対し第一線の講師陣からわかりやすく解説していただきます。「もつれ光子技術」の最新技術動向に興味をもつ方にはもちろんのこと、今までに報告されている複雑多岐にわたる「もつれ光子技術」を整理理解したい方にも最適なセミナーです。特に、これから「もつれ光子」を学びたい方にはまたとない効率的なセミナーですので、新人からベテランまで、多くの光産業技術者の皆様の参加をお待ちしております。

日 時： 2006 年 12 月 7 日(木) 10:00~16:40

場 所： 機械振興会館地下 3 階研修 1 号室 (東京都港区芝公園 3-5-8)

主 催： (社)日本オプトメカトロニクス協会

協 賛： 日本光学会

プログラム： (1) 量子情報処理とエンタングルメント, (2) パラメトリックダウンコンバージョンによるもつれ光子の生成, (3) 量子鍵配送システム~量子もつれ光子対~, (4) EIT (電磁波誘起透明化) を利用した固体素子量子コンピュータ, (5) 半導体を用いた量子もつれ光子の発生と, 量子もつれ光子を用いた量子回折・干渉実験

参加費： 1 名につき, 一般 25,515 円, 正会員 15,330 円, 賛助会員・協賛 19,425 円, 学生 4,095 円 (テキスト代・消費税を含む)

申込期限： 2006 年 11 月 30 日(木)

問合せ先： (社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp <http://www.joem.or.jp>

講演会「高出力LEDおよびLED照明の現状と将来展望」

近年、LEDの高輝度化がすすみ、既存のランプへの置き換えの動きが起っています。LED照明が実用化すると、社会のいろいろな分野でインパクトを与えることになります。本セミナーでは、LED光源の高輝度化、およびLED光源を応用するいくつかの分野での現状と将来展望、およびLED照明演色性評価、シミュレーションなどの基盤技術について解説していただきます。

日時：2007年1月18日(木) 10:00~16:50

場所：機械振興会館6階67号室(東京都港区芝公園3-5-8)

講師：田口常正(山口大)、小池輝夫(スタンレー電気)、西浦晃司(松下電工)、八木隆明(フィリップス・ルミレッズ・ライティングカンパニー)、小松原仁((財)日本色彩研究所)、市澤俊介(サイバネットシステム)

主催：(社)日本オプトメカトロニクス協会

協賛：日本光学会

参加費：1名につき、一般25,515円、正会員15,330円、賛助会員・協賛19,425円(テキスト代・消費税を含む)

申込期限：2007年1月11日(木)

問合せ先：(社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp <http://www.joem.or.jp>

光エレクトロニクス技術研修会

光学技術も光通信技術も、幾何光学と波動光学、光源と検出器、信号処理技術など共通の基盤の上に成り立っていることはいうまでもありません。光源から出た光がいろいろな光学部品を通過して検出器に至るまでの過程を比べると、共通点はいくつでもみつかります。光学に携わる技術者であればちょっとしたヒントで光エレクトロニクスの本質を理解できるはずです。本研修会はこのような観点から、光学技術者を対象とした光エレクトロニクスの基礎および応用に関する講義を企画したものです。

日時：2007年1月22日(月) 10:10~17:40、

23日(火)、24日(水) 両日

9:30~16:50

場所：機械振興会館地下3階6号室(東京都港区芝公園3-5-8)

講師：黒田和男(東大)ほか

主催：(社)日本オプトメカトロニクス協会

協賛：日本光学会

参加費：1名につき、一般86,100円、正会員58,800円、賛助会員67,200円(テキスト代・消費税を含む)

定員：42名

申込期限：2007年1月15日(月)

問合せ先：(社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp <http://www.joem.or.jp>

筑波大学大学院数理物質科学研究科教員公募

募集人員：助教1名

所属：電子・物理工学専攻、または、物質創成先端科学専攻

専門分野：光計測、光記録、光情報処理、または、バイオフォニクスに関する研究開発とその応用を専門とし、光学全般の知識を持っていること。

応募資格：博士の学位を有し(取得見込みを含む)、専門分野において優れた研究能力があり、今後の研究業績が期待できる方。同研究科の伊藤雅英教授のグループにおいて、光学分野での応用を視野に入れた研究と、大学院・学類における研究・教育ができる方。35歳以下が望ましい。

担当科目：専門科目以外に、工学基礎学類で数学、物理など基礎科目の講義ができること。

着任時期：2007年4月1日

任期：現在、筑波大学ではテニュアトラック制の導入を検討しています。テニュアトラック制が施行された場合は、5年目に審査があります。

提出書類：(1)履歴書(写真貼付)、(2)研究業績一覧(主要論文5編に○印をつけ、別刷(コピー可)各1部を添付。このうち5年以内のものを3編以上とする)、(3)採用された場合の研究計画(A4で1~2頁)、教育に対する抱負(A4で1頁以内)、(4)意見を求める方2名の氏名および連絡先

応募締切：2006年11月30日(木) 必着

書類送付先：〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学大学院数理物質科学研究科電子・物理工学専攻(物理工学系)専攻長・学系長 谷田貝豊彦

電話 029-853-4966 Fax 029-853-5205

E-mail: yatagai@bk.tsukuba.ac.jp

<http://www.bk.tsukuba.ac.jp>

※封筒には「教員応募書類」と朱書き、書留か宅配便でお送りください。

ウインター・サイエンスキャンプ '06-'07

先進的な研究施設や実験装置等を有する日本各地の大学・公的研究機関・民間企業・博物館（12会場）で冬休みの3日間高校生等を受け入れ、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料、エネルギー、製造技術、（宇宙・海洋等の）フロンティア、地球科学等の分野において、第一線で活躍する研究者・技術者等から直接講義や実習指導が受けられる科学技術体験合宿プログラムです。募集要項はWebサイトから入手できます。

開催日：2006年12月23日～2007年1月7日の冬休み期間中の2泊3日

参加費：10,000円

応募締切：11月16日(木) 必着

主催：(独)科学技術振興機構

事務局：(財)日本科学技術振興財団内 サイエンスキャンプ事務局

電話 03-3212-2454 Fax 03-3212-0014

<http://ppd.jsf.or.jp/camp/>

日本光学会 *news* の掲載申込み先：

〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1 (株)東芝 研究開発センター機械・システムラボラトリー
山本雄一郎

電話 044-549-2329 Fax 044-520-2057 E-mail: yuichiro@mssl.rdc.toshiba.co.jp

なお、掲載申込みは原則として発行日(10日)から2か月前の15日まで、開催日が1～10日の場合は、開催日の3か月前の15日までをお願いします。

日本光学会平成18年度幹事(*常任幹事)

幹事長：	伊東 一良* (大阪大)	笹木 敬司* (北海道大)
副幹事長：	立野 公男* (日立)	
前幹事長：	黒田 和男 (東京大)	
庶務幹事：	吉田 文昭* (コニカミノルタオプト)	岡本 隆之* (理研)
	田中 哲* (防衛大)	豊田 晴義* (浜松ホトニクス)
	石橋 爾子* (ネオアーク)	鬼頭 勤* (NTT)
	生駒 晋也* (トプコン)	山本雄一郎* (東芝)
	麻生 修* (古河電工)	
『光学』編集幹事：	伊藤 雅英* (筑波大)	小野寺理文 (能開大)
『OR』編集・出版幹事：	植田 憲一* (電通大)	石井 行弘* (東京理科大)
国際協力幹事：	小西 毅 (大阪大)	各務 学 (豊田中央研)
産学協力幹事：	藪本 浩利 (旭硝子)	藤井 秀雄 (ペンタックス)
将来問題担当幹事：	三宅 隆浩 (シャープ)	清水 賀代 (日本女子大)
電子化担当幹事：	的場 修 (神戸大)	伊藤 達男 (松下電器)
事業・企画担当幹事：	氏家 知子 (ニコン)	矢口 博久 (千葉大)
	佐藤 康郊 (富士ゼロックス)	本多 徳行 (キャノン)
	板橋 彰久 (リコー)	近江 雅人 (大阪大)
	武山 哲英 (オリンパス)	高橋 進 (凸版印刷)
	吉川 宣一 (埼玉大)	岡嶋 克典 (横浜国立大)
	岡本 淳 (北海道大)	松浦 祐司 (東北大)
	田代 発造 (富山大)	鈴木 孝昌 (新潟大)
	西澤 典彦 (名古屋大)	和田 健司 (大阪府立大)
	岩田 哲郎 (徳島大)	入江 正浩 (九州大)